

2017年5月30日掲載

「地理の視点で再発見」

地理を女性の視点から普及しようと主催している「地理女」のイベントで、札幌市電とNPO運営のサイクルシェア「ポロクル」で伏見エリアを巡るツアーを実施した。「地形」をテーマに、札幌が扇状地であることや伏見エリアがなぜ高台にあるのかなどについて地理的視点で学んだ。住み慣れている市民にとっては新しい切り口で、岩見沢や東京など札幌以外の住民にとっては、こんな楽しみ方もあるのだと感想をいただいた。

その数日前、仕事で道東の興部町へ行った。牧場の撮影で午前3時に起床し、放牧しているスキー場に登った。朝日に照らされたオホーツク海、牧場・・・まさに北海道という絶景が目の前に広がり、心が洗われた。牧場の一日にも密着し、当たり前のように購入している牛乳やチーズなどの乳製品が、どんな手間をかけて手元に届くのかも知ることができた貴重な機会だった。ただ観光で来ていたならば、気づかなかったことだろう。

「うちの街には何もない」と聞くこともあるが、見慣れた景色も視点を変えると新しい発見がある。関西地方のある村では外国人観光客が増えているそうだ。私たちが何もないと思っている田園風景や山について「いかにも日本の故郷だ」と感動した観光客がソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で紹介し、人気になったのだという。

地理女のイベントも今後、函館や釧路、旭川など道内各地でも実施し、地理というキーワードでさらに観光客を増やす起爆剤にしていきたい。

（毎日新聞より）